（公社）全日本鍼灸学会

第32回中部支部学術集会

抄録集

会期：平成26年11月9日（日）　午前10時00分～午後17時00分

会場：（公社）富山県鍼灸マッサージ師会館

富山県富山市神通町1丁目2-6　TEL：076-441-8986

主催　（公社）全日本鍼灸学会

もくじ

集会概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

参加者へのお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
4

集会プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
7

特別講演・教育講演抄録

特別講演 「消化管は製薬工場である―腸内細菌により変身する天然薬物―」・・・・・・・・・8
教育講演1「痒みの発生機序の最近の知見と鍼治療」・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
教育講演2「任脈督脈を用いた全体調整について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

一般口演抄録

1.「小児の魚の目に線香灸が奏功した一症例」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
2.「周産期の乳房ケアに対する鍼灸治療の効果と検討
－完全母乳と乳腺症予防を目指して－」・・・・・・15
3.「鈴鹿医療科学大学鍼灸センターにおける初診患者調査」・・・・・・・・・・・・・・・16
4.「鍼灸院における新患患者の実態調査（2）－年代別による主訴の調査－ 」・・・・・・・17
5.「潰瘍性大腸炎に対する鍼治療の一症例」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
6.「心拍変動解析による鍼刺激に対する自律神経反応の評価
－鍼刺激による持続効果の検討（2）－」・・・・・19

集会概要

集会名	（公社）全日本鍼灸学会　第32回中部支部学術集会
会期	平成 26年 11月 9日（日）
会場	（公社）富山県鍼灸マッサージ師会館 富山県富山市神通町1丁目2-6
主催	（公社）全日本鍼灸学会
支部長	津田 昌樹
実行委員長	河合 由昭
実行委員	林 博司、内田 雄二、北 虎哲、岩田 元一、立野 豊、小川 和美、 中野 剛志、竹部 隆江、杉野 篤史、木村 真梨、三島 怜

学術集会事務局　〒939-8031
富山県富山市堀川小泉町2区126-7　夢恵堂内

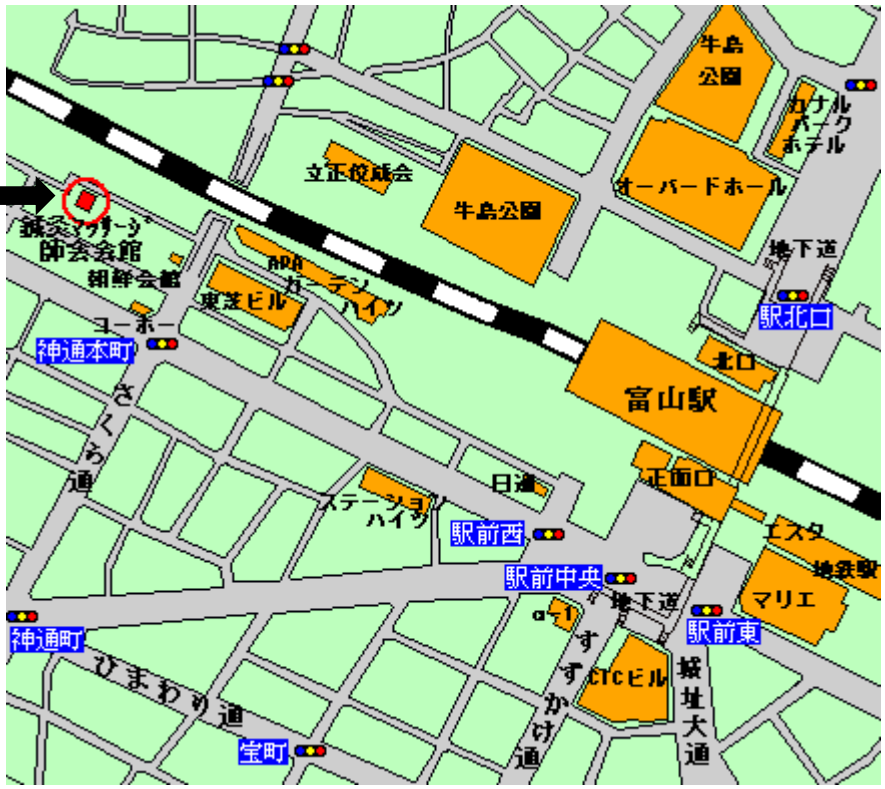
交通アクセス

（公社）富山県鍼灸マッサージ師会館

富山県富山市神通町1丁目2-6　TEL：076-441-8986

JR富山駅　正面出口より徒歩10分

こちらが会場です。



※現在富山駅は工事中の為、地図と少し異なる部分があります。ご注意ください。

参加者へのお願い

1．学術集会への参加登録について

1）事前参加登録の方

参加証は受領証と共に事前に送付させて頂きます。※当日必ずお持ちください。

会員：3000円　　一般：5000円

2）当日参加の方

当日、受付で参加登録をお済ませください。

会員：4000円　　一般：6000円　　学生：無料（事前登録不要）

2．認定受付・学会入会受付

認定受付・学会入会受付は、受付会場にて行います。　得点（参加点）：5 点

3．参加証

参加証には氏名をご記入の上、会場内では必ず首からかけてご携帯ください。

4．抄録集

抄録集は各自ご持参ください（プリントアウト又はDLで）。

ご購入ご希望の方は、受付で1部500円（税込）で販売いたします。

5．視覚に障害のある方へ

お困りの事がありましたら、近くのスタッフにお申し付けください。

6．クロークについて

クロークは会場1Fに設置いたしますのでご利用ください。

7．当日の昼食について

当日の昼食販売などは行いません。近隣（徒歩10分程）の飲食店をご利用頂くか、各自でご用意をお願いいたします。

8．写真撮影・ビデオ撮影・録音について

主催者・学術集会事務局・講演者の承諾なく会場内での写真撮影・ビデオ撮影・録音はお断りしています。

学術集会事務局の許可を受けられた方は、必ず許可証をわかりやすい場所にご掲示ください。

9．商業展示

企業展示会場にて行います。

スライド受付・動作確認について

スライド受付は、学術集会当日に行います。受付場所は、一般受付の隣にあります。
一般口演で発表される方は、開会式が始まる前にスライド受付を済ませてください。
スライド作成上の注意点は「一般口演発表の方へのお願い」をご参照ください。
発表で使用したデータは、発表終了後、責任をもって消去いたします。

一般口演の発表について

発表時間：10 分 質疑応答：5 分
※活発な質疑応答を行いたいと思いますので、演者は発表時間を厳守してください。

一般口演発表の方へのお願い

本学術集会で使用するパソコンのOS は、Windows7です。
プレゼンテーションソフトは、MS Power Point2003・2007・2010・2013 となります。

― Power Point 作成について ―

① フォントはWindows OS に標準搭載されているフォントをご使用ください。
また、経穴名など外字はunicode のみ使用可能です。それ以外の文字は画像として貼りつけてください。
② アニメーション機能は使用可能ですが、動画の音声は再生できません。
③ スライド枚数に制限はありませんが、発表時間を厳守してください。また、最後のスライドは【結語】とし、発表内容を箇条書きにまとめてください。

※PC プロジェクターは1台のみ使用可能です。
※ディスク作成後、他のパソコンで正常に動作することを確認してください。
※画面ギリギリまで使用すると再現環境の違いにより、文字や画像のはみ出し等の原因となることがあります。

― スライド受付について ―

下記の条件以外では、受付することができません。発表者の責任において、作成をお願いします。
※使用するメディアは、CD-R、UBS メモリーのみです。CD-RW、MO、FD、ZIP 等は一切受付できません。
※発表データをコピーする時には、ファイナライズ（セッションのクローズ・使用したCDのセッションを閉じる）作業を行ってください。この作業が行われなかった場合、データ作成したPC以外でデータを開くことができなくなり、発表が不可能になります。
※フォーマットはISO9660 フォーマットで行ってください。また、ご自身のPC 以外で文字化け等がなく、データを読み込めるか必ず事前にご確認ください。
※ファイル名は「筆頭演者名（氏名）.ppt」としてください。
※必ず事前に、ご自身でウイルスチェックを行ってください。

座長の先生方へのお願い

1）一般口演発表の座長の先生方は、ご担当セッション開始30分前までに受付の「座長受付」にお越しください。

2）ご担当セッション開始10分前に会場内にて待機をお願いいたします。

3）セッション開始時間になりましたら、会場進行アナウンスに従って壇上にお進みいただき、セッションを開始してください。

4）一般口演の発表時間は10分間、質疑応答は5分間です。進行は座長にお任せしますが、時間厳守でお願いいたします。

学術集会プログラム

開会挨拶　10:00～10:10　　支部長：津田 昌樹

一般口演　10:10～11:40

座長：田中 良和
中田 和宏

1.「小児の魚の目に線香灸が奏功した一症例」
竹部鍼灸院　竹部 隆江

2.「周産期の乳房ケアに対する鍼灸治療の効果と検討－完全母乳と乳腺症予防を目指して－」
あけぼの鍼灸院　坂本 麻衣

3.「鈴鹿医療科学大学鍼灸センターにおける初診患者調査」
鈴鹿医療科学大学鍼灸センター　石山 良平

4.「鍼灸院における新患患者の実態調査（2）－年代別による主訴の調査－」
東洋医学研究所®　赤石 望

5.「潰瘍性大腸炎に対する鍼治療の一症例」
東洋医学研究所®　橋本 高史

6.「心拍変動解析による鍼刺激に対する自律神経反応の評価－鍼刺激による持続効果の検討（2）－」
東洋医学研究所®
名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野　山田 篤

休憩（昼食）11:40～13:00

特別講演　13:00～14:00

「消化管は製薬工場である—腸内細菌により変身する天然薬物—」

演者：服部 征雄（富山大学名誉教授・放送大学富山学習センター所長）
座長：津田 昌樹

教育講演1　14:00～15:00

「痒みの発生機序の最近の知見と鍼治療」

演者：安東 嗣修（富山大学大学院医学薬学教育部応用薬理学教室准教授）
座長：清水 洋二

教育講演2　15:00～16:30

「任脈督脈を用いた全体調整について」

演者：戸ヶ﨑 正男（蓬治療所所長）
座長：河合 由昭

閉会挨拶　16:30～　　実行委員長：河合 由昭

特別講演

「消化管は製薬工場である—腸内細菌により変身する天然薬物—」

富山大学名誉教授・放送大学富山学習センター所長
服部 征雄

消化管内には 100 兆個もの腸内細菌が棲息しており、私達の健康とも密接な関係を保っていることが明らかになり、腸内細菌と宿主の関係が近年特に脚光を浴びている。漢方医学を初めとする伝統医薬の治療には天然薬物が用いられるが、それら薬効に関係する成分は主として配糖体や活性成分の前駆体である場合が多い。これらは消化管内で腸内細菌によりアグリコンや真の活性成分に代謝される。私達は漢方薬がどうして効くかと言う問題を研究していく上で、腸内細菌叢が深く関わっていることを明らかにしてきた。例えば、大黄の成分センノシドはビフィズス菌の働きで配糖体が加水分解され、その他の菌種によって真の瀉下成分に変換されることを明らかにした。同じようにアロエ成分も腸内細菌の働きで瀉下作用が発現される。また、亜麻子、ゴボウの種子、紅花の種子の成分は腸内細菌の働きで、女性ホルモン様作用を持つエンテロリグナンに変換されることを示した。これらエンテロリグナンを比較的多く排泄する女性や菜食主義者には乳癌、心臓の冠動脈障害、大腸癌などの発症率が少ないことから特に欧米で注目されている。閉経期の不定愁訴などの対策として穀物、果実などに多く含まれるリグナン類は、大豆などに含まれるイソフラボンと同様に食物科学の面からも脚光を浴びている。この場合、ヒトの腸内細菌叢には個人差があり、食べた女性ホルモン前駆体を全て効率よく女性ホルモン様物質に変換できるヒトもあればできないヒトもあることが悩みの種である。今回の講演では隠れた腸内細菌の働きを薬物の活性化という観点から眺め、消化管は製薬工場であり、腸内細菌は無限の可能性を持った担い手であることを理解していただく予定である。

プロフィール

服部　征雄（はっとり　まさお）

富山大学特任教授・放送大学富山学習センター所長

専門分野　　和漢薬学、生薬学、天然物化学

主な研究テーマ　腸内細菌フローラは和漢薬の薬効と深い関係がある

主な所属学会　　和漢医薬学会、日本生薬学会、日本アーユルヴェーダ学会、日本薬学会、天然薬物研究方法論アカデミー

学位

1972 年 3 月 薬学博士

学歴

1972 年 大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了

職歴

1972 年 ～1975 年

米国国立衛生研究所客員研究員

1975 年 ～1977 年

西ドイツ国コンスタンツ大学客員研究員

1979 年 ～1991 年

富山医科薬科大学和漢薬研究所助教授

1991 年 ～2010 年

富山医科薬科大学及び富山大学和漢薬研究所教授

2001 年～2006 年

富山医科薬科大学及び富山大学和漢医薬学総合研究所長併任

2011 年 ～

放送大学富山学習センター所長

教育講演１

「痒みの発生機序の最近の知見と鍼治療」

富山大学医学薬学研究部　応用薬理学
安東 嗣修

痒み（itch，pruritus）は，「掻きたいという欲望をもたらす不快な感覚」と定義されている。痒みは，もともと皮膚や粘膜に付着した異物を取り除くためにもたらされた感覚である。しかし，病的な様々な皮膚疾患や粘膜系の疾患に起因する痒みは，ストレスの誘発に加え，掻破による皮膚や粘膜系の疾患の更なる悪化を招く。また，掻破刺激により掻破部での痒み因子の産生・遊離が増加することで痒みが増強され，更に掻破が誘発されるという痒みの悪循環（itch-scratch vicious cycle）が生じる。したがって，痒みのコントロールは非常に重要である。ヒスタミンは，古くから痒みの主要なメディエーターとして考えられており，抗ヒスタミン薬が臨床において痒みの第一選択薬として現在使用されている。しかし，急性の蕁麻疹以外の痒み（例えば，アトピー性皮膚炎，胆汁うっ滞，慢性腎不全による透析など）には抗ヒスタミン薬が無効である場合が多い。そこで，新規鎮痒薬の開発が求められている。その一方で，痒みの発生機序が不明であるため鎮痒薬の開発に必要なターゲット分子に関する情報が殆どなかったため，鎮痒薬の開発が遅れているのが現状である。近年，痒みの動物モデルやその評価法が確立されてきたことから，新規の痒みの発生機序が明らかになってきている。その中で，痒みの発生には，特に，末梢（皮膚）において多くの痒み因子や痒みの増強因子が関与することが見出されている。このことは，単一の薬物，しかも１つの因子をターゲットとしたものでは痒みをコントロールすることは難しいことが理解される。そこで，何らかの方法で痒みをコントロールする必要がある。ところで，古くから難治性疼痛に対し鍼治療が有効であることが多く報告されてきている。したがって，痒みにも鍼治療が有用である可能性が示唆される。実際に鍼治療により痒みの緩和に関しての報告がある。そこで，本講演では，痒みの発生機序に関する末梢から中枢の伝達機構など最近の知見を概説し，鍼治療における痒みのコントロールとその機序に関してこれまでの我々の研究成果を基に考察する。

プロフィール

安東　嗣修（あんどうつぐのぶ）

富山大学大学院医学薬学研究部（薬学）応用薬理学　准教授

研究テーマ

１）痒みと痛みの発生機序に関する研究

２）神経保護作用に関する研究

３）病態モデルの作製

学位

博士（薬学）

学歴

1994 年 3 月　　富山医科薬科大学薬学部卒業（同年 5 月　薬剤師免許取得）

1999 年 3 月　　富山医科薬科大学大学院　薬学研究科 修了

教育講演２

任脈督脈を用いた全体調整について

蓬治療所所長
戸ヶ﨑 正男

19 歳で漢方に出会い、竹山晋一郎氏の著した『漢方医術復興の理論』を読んで感銘したことがこの道で生きて行こうと決意した理由の一つです。この本に出会わなければ、今の自分はなかったといっても過言ではありません。

この本を読むと、江戸期まで医学の中心であった漢方が何故明治になって撲滅され、歴史の表舞台から消えてしまったか、鍼灸は何故視覚障害者の職業として残ったのか、また、明治期存続運動に命をかけた漢方家達の悲痛な叫びや熱い思いも伝わってきます。そして、大正から昭和の初期に漢方、鍼灸が見直されるようになり、経絡的治療が何故誕生したのかという事情がよく分かります。

また、恩師である産婦人科医の石野信安先生が漢方と鍼灸を行い、鍼では経絡治療をしていました。

このような事情で経絡治療を行い、これによって鍼灸を医学化し日本の医療にのせることが自分の使命であると考えるようになりました。以後、これを検証をしてきました。

初めは自分の技術、経験が伴なわないから、効果を出せないと思いました。しかし、臨床を重ねるにしたがってこのシステム自体に問題があることに気付き、どうしたらこれが効果的に機能するか、試行錯誤しました。40 代の頃から任脈、督脈を本治法の場とした治療法を考案し臨床を続け効果的であることが分かり、4、5 年前にようやく任督中心治療として整理しました。

また、50 歳頃から、経絡治療の草創期の見直し、戦後の鍼灸界の対立関係、鍼灸界の経絡治療に対する見方等を文献調査し、数年かけてこのシステムの学術的、社会的意義を整理しました。

以上のような経絡治療の臨床実践と文献研究によって分かったこと、任督中心治療に至るまでを解説し、その実際を行います。

1．経絡治療の優れた側面と問題点及び改善点
2．本治法から全体治療、標治法唐部分治療
3．任督中心治療について
4．任督中心治療の実際

プロフィール

戸ヶ﨑　正男（とがさき　まさお）

蓬治療所所長

1952 年　埼玉に生まれる。

1976 年　東京理科大学薬学部卒業。薬学部在学中、東洋医学を長沢元夫氏から学ぶ。

1979 年　東洋鍼灸専門学校卒業。鍼灸学校在学中から 10 数年にわたり、鍼灸と漢方を石野信安氏から実地指導を受ける。

1982 年　蓬治療所開所

1988 年　東洋鍼灸専門学校講師

1990 年　長江会多聞内神道の太極拳を学び、現在、大師兄 7 段

2012 年 4 月　日本伝統鍼灸学会　学術部長

2014 年 3 月　東洋鍼灸専門学校講師を辞任

現在、蓬治療所所長として臨床を続ける。

【共著・著書】

・『東洋医学入門』（エンタープライズ社）・『自然のお産がしたい』（文化出版）

・『柳谷素霊に還れ』、『圧痛点とその変え方』、『鍼灸臨床のコツ』（医道の日本社）

・『思うツボ』（ヒューマンワールド）、『経絡按摩（DVD 付）』（ヒューマンワールド）

【論文】

1.「ツボを虚実で的確に捉えられれば適切な補瀉が可能になる」
　医道の日本　第 716 号（平成 15 年 7 月号）

2.「四型分類（異常な場の形態特性）と診断、治療との関係について」
　鍼灸 OSAKA 通巻 71 号（vol.19No.3/2003. Autumn ）

3.「鍼響の本質及び鍼響と四型分類との関係について」
　鍼灸 OSAKA 通巻 72 号（vol.19No.4/2003.Winter）

4.「東洋医学における圧痛点の見方とその臨床応用」
　（『圧痛点と鍼灸臨床』医道の日本社編集部編）

5.「触診上達の秘訣」
　（『ベテラン治療家に学ぶ鍼灸臨床のコツ』医道の日本社編集部編）

6.「効かせる鍼を身につけるには」鍼灸 OSAKA 通巻 100/101 合併号
　（Vol.26No.4/2010.Winter/ Vol.27No.1/2011.spring）

7.「効かせる灸を身につけるには」鍼灸 OSAKA 通巻 100/101 合併号
　（Vol.26No.4/2010.Winter/ Vol.27No.1/2011.spring）

8.「任脉・督脉上の経穴を用いた治療システムについて」
　日本伝統鍼灸学会雑誌 32 巻 2 号（2006 年 5.30）

9.「刺鍼手技（鍵）と刺鍼の場の状態（鍵穴）との関係について」
　日本伝統鍼灸学会雑誌 33 巻 2 号（2007 年．5．10）

10.「灸(透熱灸)の補瀉について」日本伝統鍼灸学会雑誌 37 巻 1 号（2010 年）

一般口演

小児の魚の目に線香灸が奏功した一症例

竹部鍼灸院　　竹部　隆江
はり灸夢恵堂　津田　昌樹

【はじめに】魚の目（鶏眼）に灼熱灸が有効であることはよく知られている。今回我々は小児の魚の目に対し、お灸用の線香を近づけ間接的に熱刺激を与える方法（以下線香灸）が奏功した症例を経験したので報告する。

【症例】8 歳男児（小学 2 年生）

＜主訴＞足裏の魚の目＜現病歴＞X 年 3 月頃に魚の目が出来ている事に母親が気付いた。患部の圧痛や走行時痛があるため、2 学期の運動会で痛み無く速く走れるようになりたいと本人が希望し、X 年 8 月 20 日鍼灸治療を開始。＜既往歴＞X - 1 年 12 月に左足腓骨骨折でシーネ固定による松葉杖歩行（約 1 ヶ月）。X 年 5 月に左足関節捻挫でギプス固定による松葉杖歩行（約 2 週間）。＜他覚的所見＞魚の目の場所は左足裏の踵中央部、第 2 趾中足指節間関節（MP 関節）裏側部分、右足第 2 趾中足指節間関節（MP 関節）裏側部分に各一カ所、直径 4~5mm の大きさで丸く角質層が肥厚、炎症症状なし。発育良好。＜治療＞全身の気血を整える目的で大師流小児はり施行。身柱･命門に知熱灸を各 1 壮、足裏の魚の目に線香灸、患部に線香を近づけ熱く感じるまで熱を加える。

【結果】1 日一回 5 日間治療し、その後一週間は自宅で母親に線香灸を続けてもらったところ、治療開始から約 2 週間後には魚の目が殆ど消失した。

【考察】本症例では対象が小児であることから、施術時に恐怖感を与えないよう考慮し、かつ効果的な方法を模索して線香灸を試みたところ奏効した。熱刺激の質は別として、今回のような治療方法で効果を得られたことは、熱刺激が深部に到達しなくとも効果的で、小児の魚の目に対する温熱治療の熱量がどの程度必要かという一つの目安となりうると考えた。

【結語】魚の目を主訴とした小児の症例に対して鍼灸治療と自宅での線香灸を行い、約 2 週間で魚の目が消失したことから、今回の症例において鍼灸治療は有効であったと印象を持った。今後も同様な症例を重ね検討していきたい。

キーワード：小児、魚の目、鶏眼、線香灸、鍼灸治療

周産期の乳房ケアに対する鍼灸治療の効果と検討

～完全母乳と乳腺症予防を目指して～

あけぼの鍼灸院
坂本麻衣　片岡泰弘

【目的】

当院では、不妊治療後妊娠した患者に出産直前まで治療を行っている。殆どの患者が産後の完全母乳と乳腺症への不安を抱いていた。そこで女性鍼灸師が乳房の触診を行ったところ圧痛が確認されたので以下の４項目を調査・検討した

【方法】

調査項目①　左右両乳房それぞれの最圧痛部位の特定

②　①の治療前後の比較

③　治療前の圧痛値の経過

④　産後 6 ヶ月間の母乳状況の確認

対象者は当院にて不妊治療後妊娠した患者７名（初産婦６名　経産婦１名）。乳房の治療は全身治療後に行った。乳房部にはてい鍼（金・銀）のみ用いた。両乳房をそれぞれ縦横中央に９分割し、TRY－ALL 社製 NEUTONE 圧痛計にて治療前後の数値（N=newton）を測定（測定上限値は治療前:10 治療後:15）した。

治療頻度は状態により原則 1 週間に 1 回程度

乳房の治療開始は妊娠 25 週以降から女性鍼灸師が施術

【結果】

平均年齢 35.86±3.18 歳　平均治療回数 4.83±0.90 回

①　最圧痛部位は両乳頭の下部中央

②　治療前→治療後平均 N(mean±SD) (paired-t 検定)

右:5.55±1.89→7.05±3.24(p=0.006)

左:6.06±1.47→7.26±3.40(p=0.044)

と値の上昇がみられた

③　治療前の圧痛値の経過に有位差はみられなかった

④　全症例完全母乳で乳腺症の発症もなかった

【考察・結語】

妊娠期の乳房の発達には下部へ圧がかかりやすく、多く圧痛を訴えた。そしてこの部位が乳房ケアに有用な治療部位であることが示唆された。治療前後の圧痛の変化を定量的に測定することで、治療の有効性が確認された。また治療前の圧痛値に変化がなかったことは、治療効果の継続性と乳房の発達過程が影響するので、それに伴う週数毎の鍼灸治療の必要性が示唆された。今後更に症例を増やし、治療法と測定法の改善と検討を行い、女性鍼灸師の利点を生かした乳房ケアと周産期の鍼灸を研究していきたい。

キーワード：周産期、乳腺症、乳房ケア、完全母乳、圧痛計

鈴鹿医療科学大学鍼灸センターにおける初診患者調査

石山良平[1)]　金原正幸[4)]　山下幸司[3)]　西村甲[2)]
[1)]鈴鹿医療科学大学鍼灸センター
[2)]鈴鹿医療科学大学保健衛生学部鍼灸学科
[3)]鈴鹿医療科学大学医用工学部医用情報工学科
[4)]ASSA 白子鍼灸接骨院

【はじめに】
鈴鹿医療科学大学鍼灸センターにおける初診患者について受診動機、主訴の調査を行った。
【方法】
対象は2013年7月1日~2014年7月31日に当センターを初診した286例とした。調査項目は年齢、性別、主訴、受診動機である。主訴は筋骨症状、疼痛症状、眼・耳・鼻の五官症状、胸腹部の症状、泌尿生殖器症状の合計30種類と該当なしの計31種類に分類した。受診動機はテレビ、雑誌、広告、鍼灸センターホームページ、講演会、医療機関・他鍼灸院・知人の紹介、その他の項目に分け複数回答を含め集計した。
【結果】
症例は男性103例、女性183例であった。年齢は1~90歳で、中央値は54歳であった。主訴は肩こり・頚部痛69例、腰痛51例、痺れ16例、耳鳴り15例、その他71例となった。その他には分類に該当しない疼痛症状や失語、美容鍼灸、疳虫が含まれていた。受診動機は回答総数が291例で、内訳は知人紹介が153例、鍼灸センターホームページが33例、その他が33例、無記入が40例であった。年齢層では男性が60・70代、女性は50・60代が多かった。性別の主訴では女性の肩こり・頚部痛の割合が多かった。世代別では大きな差はなかった。
【考察および結語】
鍼灸治療の効果が広く知られている肩こり、腰痛を主とした運動器症状を主訴にするものが多かった。一方で分類に該当しない主訴も多く、分類の再検討が必要である。受診動機では知人紹介が最も多かった。これは家族や友人、教職員によるもので、鍼灸治療を受ける患者にとって身近な存在からの情報が最も信頼出来るということであろう。また他の鍼灸院や医療機関からの紹介が極めて少ないことは本センターの認知度が低い可能性を示唆しており、今後の技術向上と臨床研究推進ならびにその情報発信が急務であると考える。

キーワード：鍼灸治療、主訴、受診動機

鍼灸院における新患患者の実態調査（2）

～年代別による主訴の調査～

東洋医学研究所®
赤石望　黒野保三

【目的】我々は「鍼灸院における新患患者の実態調査」と題して、東洋医学研究所®に来院した新患患者（4596 名）の調査分類を行い、性別・年齢・主訴の結果を第 63 回（公社）全日本鍼灸学会学術大会において報告した。

今回は、年代別の主訴を調査したので報告する。

【方法】平成元年 4 月～平成 24 年 3 月の 23 年間に東洋医学研究所®に来院した新患患者 4596 名（男 2199 名　女 2397 名）の 10 代～80 代を対象に、年代別による主訴を調査した。

【結果】主訴で痛みを訴える人の割合は、10 代と 60 代を除く年代で半数以上を占めた。痛み以外の主訴では、すべての年代で運動器疾患が多かった。また年代が上がるにつれ神経系疾患の割合が増えた。感覚器疾患は、10 代、20 代の割合が多く、さらに 30 代から 70 代と年齢が上がるにつれて割合が増えた。心療内科疾患では、10 代、20 代、30 代、60 代で多かった。

【考察】特に 10 代では、感覚器疾患が多く、痛み疾患、運動器疾患よりも多い結果となった。このことは、デジタル社会となっている現代において、視力の低下が社会問題となっていることと関係していると思われる。

10 代、60 代を除く年代で痛みを主訴とする人が半数以上となり、痛み以外の主訴では肩こりや運動障害など運動器疾患が多かった。このことから鍼灸院に訪れる人の多くは年代にかかわらず、痛みまたは運動器疾患を訴えると考えられる。

さらにしびれや顔面神経麻痺など神経系疾患や、耳鳴りや視力低下などの感覚器疾患は、年代が上がるにつれて割合が増えた。年代が上がり、神経や感覚器に不調をきたすと思われる。

心療内科疾患では 10 代から 30 代、60 代が多いことから、若年のみならず高齢者もストレスに影響されると思われる。

【結語】今回、鍼灸院における新患患者の実態調査において、年代別の主訴を比較することで、年代別の特徴が明らかとなった。今後さらに詳細に調査検討をしていきたい。

キーワード：鍼治療、実態調査、新患患者、主訴、年代別

潰瘍性大腸炎に対する鍼治療の一症例

東洋医学研究所®
橋本高史　黒野保三

【目的】わが国で特定疾患に指定されている潰瘍性大腸炎は、大腸に慢性の炎症が起きて潰瘍ができる疾患で、下痢、血便、腹痛などの症状がみられる疾患である。

今回 10 年間再燃と寛解を繰り返し、血性下痢や腹痛を伴う患者に対し鍼治療を行なったところ、興味ある結果が得られたので報告する。

【症例】49 歳女性。平成 14 年に仕事が忙しく休めない状態であり、秋頃からストレスと過労からか、腹痛と下痢がひどく、病院の検査で潰瘍性大腸炎と診断された。治療としてステロイドの点滴を始めたが､寒い時期になると下痢が 1 日 10 回以上あり､便が出た後に便器にひどい出血があった。治療方法は週 2 回筋膜上圧刺激にて、黒野式全身調整基本穴による生体の統合的制御機構の活性化を目的とした生体制御療法（鍼治療）を行った。症状の推移を客観的に検討する目的で不定愁訴カルテを用いた。治療期間は平成 26 年 1 月 28 日～平成 26 年 4 月 19 日までの 75 日間（19 回)。

【結果】気温が低いとひどい血性下痢が続くが、8 回目来院時には腹痛の時間も短くなり例年より体が楽になった。白血球数が 2 月 28 日の検査では 12.000/μl だったが、3 月 4 日には 8.000/μl（正常範囲内）に減少した。不定愁訴指数は初回 12 点から 15 回来院時には 9 点と減少した。その後も鍼治療を継続し、自覚症状は消失した。

【考察・結語】10 年間続く再燃寛解型であると考えられる潰瘍性大腸炎患者に対し鍼治療を施したところ、寒い時期にも関わらず白血球数は顕著に減少し、自覚症状は消失した。このことは、週 2 回・等間隔の定期的な生体制御療法（鍼治療）が生体の免疫機構に影響を与え、大腸の炎症を抑えたことにより症状が好転したものと考えられる。また、不定愁訴カルテを使用することによって、鍼治療の有効性を定量的に見いだすことができた。

今後も症例を積み重ね、鍼治療の効果を客観的に検討していきたい。

キーワード：潰瘍性大腸炎、黒野式全身調整基本穴、生体制御療法（鍼治療）
不定愁訴カルテ、白血球数

心拍変動解析による鍼刺激に対する自律神経反応の評価

－鍼刺激による持続効果の検討（2）－

山田　篤 [1) 3)] 皆川宗徳 [1)] 石神龍代 [1)] 各務壽紀 [1)]
黒野保三 [2)] 早野順一郎 [3)]
東洋医学研究所®グループ [1)]
東洋医学研究所®[2)]
名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野 [3)]

【目的】我々はこれまで、心拍変動解析を用いて上腹部中央にある中脘穴や胸部中央にある膻中穴の鍼刺激（筋膜上圧刺激）により、心臓副交感神経が亢進すると報告した。しかし、心臓副交感神経の亢進は鍼刺激後 10 分間の評価であるため、鍼刺激後 10 分以上の反応持続時間については検討していなかった。そこで前回は、中脘穴への鍼刺激による自律神経の反応持続時間について心拍変動解析を用いて検討したところ、心臓副交感神経亢進の反応持続時間は 30 分持続することを報告した。

しかし、鍼刺激による心臓副交感神経亢進の反応持続時間は、時間経過との比較がされていないため、今回は、鍼刺激の持続効果をコントロール（鍼刺激なし）と比較して検討した。

【方法】対象は健康成人 11 名で、中脘穴への鍼刺激とコントロールの 2 回心電図を測定した。仰臥位にて鍼刺激前 10 分と鍼刺激後 30 分（合計 40 分）、別の日にコントロールとして 40 分仰臥位にて測定し、それぞれ心電図から R-R 間隔を計測した。周波数解析により 0.04-0.15Hz および 0.15-0.45Hz の変動を Low frequency(LF)、high frequency(HF)として、パワーの自然対数値（ln）と両者のパワーの比（LF/HF）を求め、心拍数、lnHF、lnLF、LF/HF の継時的な変化を complex demodulation 法によって分析し、鍼刺激とコントロールを比較した。

【結果】鍼刺激により心臓副交感神経活動の lnHF は 30 分増加を示したが、コントロールは変化を示さなかった。

【考察・結語】コントロールでは変化はなく、中脘穴の鍼刺激により心臓副交感神経亢進は 30 分持続することから、心臓副交感神経亢進が持続するのは鍼刺激によるものと示唆された。

キーワード：中脘穴、鍼刺激（筋膜上圧刺激）、心拍変動解析、自律神経、心臓副交感神経